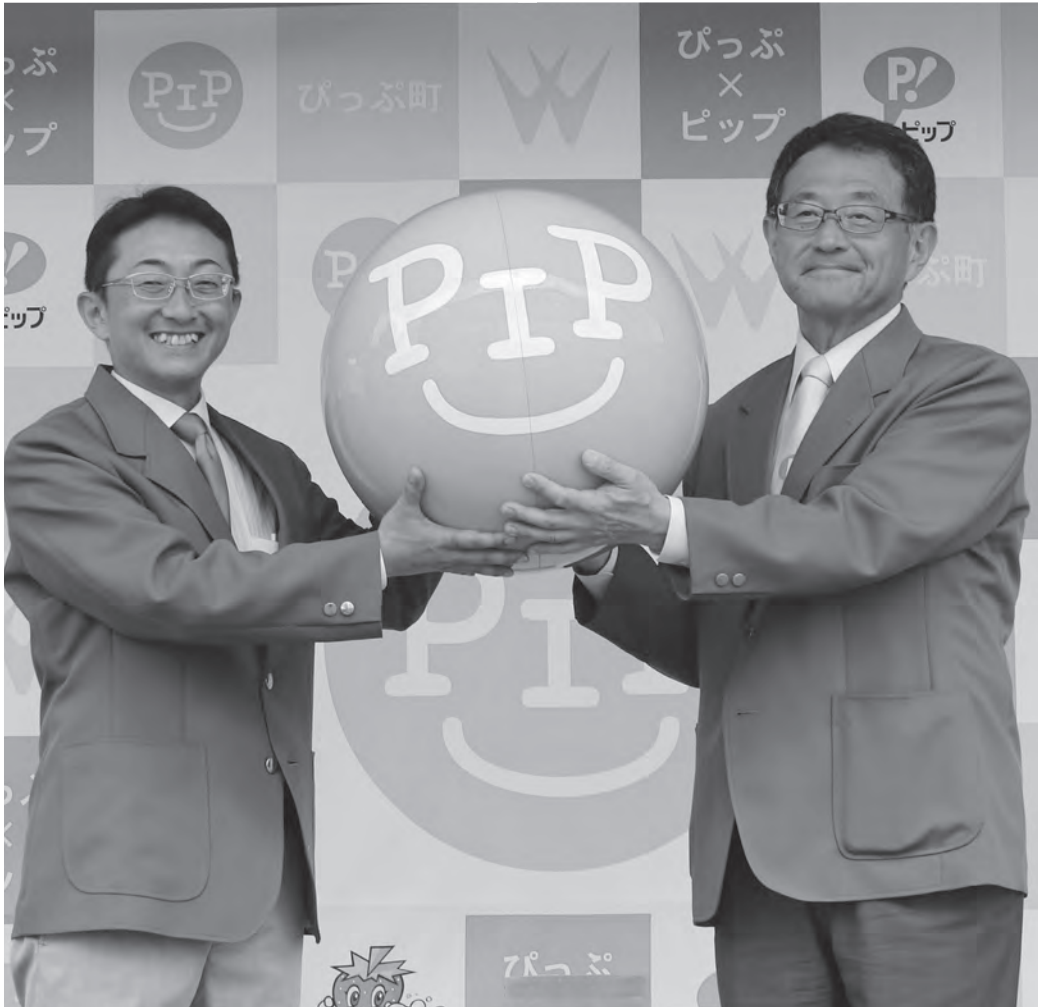


比布町ふるさと通信
2020年号

ぴっぴ



新たなイチゴの栽培を目指して

13年ぶりの春採りイチゴ「ゆきララ」誕生 冬イチゴ「紅ほっぺ」の実証栽培スタート

「ゆきララ」を道内初出荷

北海道生まれ、春採りイチゴの新品種が誕生しました。その名も「ゆきララ」。雪国北海道の「ゆき」と、春の収穫でココロ踊る楽しさを表現した「ララ」を組み合わせて名づけられました。

北海道立総合研究機構花・野菜技術センターで開発されたこのイチゴは、道内の主力品種「けんたろう」に比べ、粒が大ぶりで収量が多いのが特徴です。
また、「けんたろう」に負けないおいしさも魅力で、甘みと酸味のバラ



ンスが良く、粒が大ぶりなため口いっぱいにはおぼる感覚が楽しめます。

道内での本格的な栽培は令和2年度からですが、比布町は全道に先駆け昨年春から出荷。少量ではありましたが、市場では高い評価を受けました。

「紅ほっぺ」でまちおこし

新たな取り組みとして、町とJAびつぷ町、生産者が一体となり、12月から雪解けの時期までに収穫を行う冬イチゴ「紅ほっぺ」の実証実験栽培を開始しました。

「紅ほっぺ」は9月上旬に苗を定植し、一定期間5℃以下にする休眠が必要で、「紅ほっぺ」は、町内で主力品種の「けんたろう」の5分の1の休眠時間である200時間程度でよいいため、冬に収穫することが出来ます。さらに見た目は大きく長い果実が特徴的で、コクのある甘さが売ります。

栽培ハウスは、3重の特殊なビニ-

横幅が大きくぷっくりしている「ゆきララ」



ルシートで覆われ、昼間は20℃前後、夜間でも12℃以上に保たれ、ハウス内では、約2100株のイチゴ苗が高設栽培で大切に育てられています。温度・水・肥料・二酸化炭素などの栽培環境がコンピューターによって設定され、自動で管理される仕組みです。このような寒冷地での栽培は先例が少なく、ほとんどが手探りの実験的な試み。得られたデータは、今後の生産拡大に生かされることとなります。

「紅ほっぺ」は、町内の若手農家たちで組織する農業生産法人ネクス・ピークで生産しています。同社の北川雅樹代表は「1年を通してイチゴが収穫できれば、衰退しつつある特産品のイチゴ栽培を復活でき、町の力になる」と、この事業への熱い思いを語りました。

紅ほっぺは、ナナプラザなど町内で販売中！
ぜひご賞味ください♪



まちのできごと Town News

2019.3- 2020.2



新規出店「いちごとKaoriと洋菓子店」

平成31年3月17日

旭川比布同郷会が総会を開催

3月26日

大平将夢さん(中2)が第49回日本少年野球春季全国大会(埼玉県)に出場

3月29日

大石陽斗さん(小6)・長尾健吾さん(小6)ペア(ソフトテニス少年団)が全国小学生ソフトテニス大会(千葉県)に出場

4月21日

比布町議会議員選挙投票日

4月25日

比布町LINE公式アカウントを開設

令和元年6月22日

東京比布会が総会を開催

7月7日

札幌比布会が総会を開催

7月23日

梅澤恵生さん(小6)、戸田優生さん(小5)、梅澤満喜さん(小2)が文部科学大臣杯第15回小中学生将棋団体戦東日本大会(東京都)に出場

ふるさと会から

各会では会員を募集しています。各連絡先または比布町役場総務企画課まちづくり推進室広報係へお気軽にご連絡ください。



平成31年3月17日に開催された総会に66人が出席。また5年に1度の「ふるさと訪問」が令和元年7月13日に開かれ、町民との交流を深めました。

旭川比布同郷会

- 会長 合田 春夫さん
- 会員 約350人
- 総会 毎年3月中旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 今野浩安さん
☎ 0166-61-4492



令和元年7月7日に総会を開催。104人が出席し、特産品販売が行われたほか、「ふるさと」を合唱。抽選会も行われ、総会のうちに終えられました。

札幌比布会

- 会長 大谷 知彰さん
- 会員 約250人
- 総会 毎年7月上旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 高橋美伸さん
☎ 090-1640-3453



令和元年6月22日に開催した総会に62人が出席。本町出身で東京医科歯科大学の吉澤学長も出席。懐かしい友人らと思い出話に花を咲かせました。

東京比布会

- 会長 牧野 正さん
- 会員 約300人
- 総会 毎年6月下旬ごろ
- 会費 8,000円程度
- 連絡先 深瀬和昭さん
☎ 048-554-6765

ふるさと納税
未来の比布を応援してください！

「ふるさと納税」とは、応援したい自治体への寄附を通じて、その寄附額の一定限度額を居住地の個人住民税・所得税から控除できる制度です。

美味しいと感じていただけるミニトマト栽培に挑戦中です！

無農薬のミニトマト

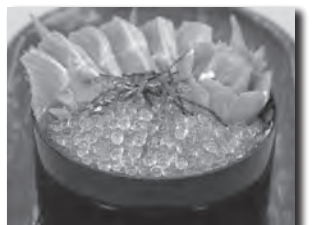
2018年から町内に新規就農した畠山農園最高糖度13度の酸味を抑えた高糖度フルーツミニトマト「ジェルバ」は大好評！※無農薬栽培ミニトマトの甘さを最大限に引き出し、サクッとした食感と口の中に広がる甘さをお楽しみ下さい。農薬、化成肥料不使用の為、小さなお子様でも安心してお召し上がり頂けます。※糖度の平均は10～12度です（当農園測定）



ゆめぴりか精米



小ねぎシリーズ（3本セット） にじますイクラ



返礼品は上記の他にも、TKGセット、メロン「甘栗」、苺ジャムなど合計17品から選ぶことができます。

検索 **比布町HP**

詳しくはコチラです

- 8月3日 梅澤満喜さん（小2）が第18回小学生倉敷王将戦（岡山県）に出場。低学年の部で見事ベスト8に入賞
- 8月7日 ピップ（株）と「PIP相互応援大使活動」をスタート
- 9月15日 プロバレーボールのヴォレアスカップ2019を開催
- 10月1日 野地馨さんが旭日単光章を受章
- 11月27日 山内一彦さんが北海道社会貢献賞を受賞
- 11月28日 比布駅前に日本一過保護な「ポケモンマンホール」が設置
- 12月28日 比布中学校剣道部女子が内閣総理大臣杯授与第37回若鷲旗剣道大会（兵庫県）に2年連続で出場
- 2月19日 国道40号線沿いに「いちごとKatoriと洋菓子店」がオープン

歴史を訪ねて

比布のイチゴ栽培は古く、大正10年ごろから太田山付近の数戸の農家が自家用として植えていたといわれる。大正末期から昭和初期には、村内や旭川市などで小売販売され畑作農家の現金収入源となっていた。

イチゴの歴史

昭和10年ごろから旭川市への市場出荷が始まり、小売店や消費者から「比布苺」の銘柄で呼ばれていた。

昭和25年のイチゴの作付面積は39畝となり、30年ごろには生産者も栽培面積も増加したが、40年ごろになると長年の連作障害により病害虫が発生し、生産量の低下とともに栽培面積も減少していった。

町では44年に10号沢開拓地のイチゴ育苗成ほ場設置に対し助成を行った。また48年に原種ほ設置の道指定を受け、北2線8号の町有地に町営採苗ほを設けてイチゴ生産団地の育成を行った。

また、46年ごろからはハウスイチゴ栽培の研究が始まり、翌47年5月に旭川の市場へ500パックが初出荷された。57年6月に町が主催して旭川買物公園で「第1回びっぶいちごまつり」を開催。壺屋と提携し「びっぶ富万十びっぶ富の里」「びっぶ苺羊羹」なども販売した。58年から農家ほ場でのイチゴ狩りも行われるようになった。

平成3年6月には、実行委員組織で主催した「第1回ストロベリーフェスタ・イン・びっぶ」が開催され、約4500人の観客らで会場が埋め尽くされた。

(参考・比布町史)



びっぶ苺羊羹



びっぶ富万十「びっぶ富の里」



旭川買物公園での「びっぶいちごまつり」では、新鮮なイチゴを求める買い物客でにぎわった。



平成3年から始まった「ストロベリーフェスタ・イン・びっぶ」は10年間にわたり開催され、多くの観光客が押し寄せた。

発行・編集

ふるさと通信『ぴび』 令和2年3月4日発行(通巻第20号)

■発行 比布町

■編集 総務企画課まちづくり推進室広報係

〒078-0392 北海道上川郡比布町北町1丁目2番1号

☎0166-85-2111(代表) 0166-85-4802(総務企画課直通)

□ホームページ <http://www.town.pippu.hokkaido.jp>

□Eメール ichigo@town.pippu.hokkaido.jp



高設栽培の「紅ほっぺ」

まちの人口

総数 3,664人

男 1,727人

女 1,937人

世帯数 1,809世帯

■令和2年1月末日現在
住民基本台帳等登録数

比布町ふるさと通信「ぴび」は、比布を離れた人と比布を結ぶ情報紙です。

みなさまから、町外で暮らしているご家族やご友人へお届けください。